

5月19日（火）

鈴木先生から 『時速110kmで飛ぶカナブン』

皆さんは、時速110kmで飛ぶカナブンを見たことがありますか？ 私は、見たことがあります。こんなことを書くと、「それはおかしい。何かの見まちがえ。」と思うでしょう。でも、まあ少し、おつきあいください。

まず、カナブンは昆虫の一種でカブトムシを小さくしたような形をしています。硬い殻につつまれていて見た目よりは重さがあります。右の写真のような昆虫できっと一度は、見たことがあると思います。



さて、本題に戻ります。こんな小さな昆虫が「そんな速さで飛べるのか」ということです。この昆虫が頑張って飛んだとしても、100%無理です。せいぜい、時速10kmぐらいが最高速度だそうです。ところが、ある条件であれば、時速110kmになります。

では、ヒントです。私はバイクに乗ります。高速道路では、普通に時速100kmで走行します。さて、気づいたでしょうか。「前から時速10kmで飛んでくるカナブンに時速100kmのバイクが進んで行けば速さは合計で110kmになります。」これは「相対速度」（そうたいそくど）という考え方です。実際の生活でもいろいろな場面で見られる現象なので、皆さんも探してみれば、同じような現象が思いあたるでしょう。

付け足しになりますが、この速さのカナブンを当たると、ヘルメットをかぶっていても結構な衝撃があります。

清水先生から 『ユニバーサルデザインについて』

☆ユニバーサルデザインとは

1980年代、米国ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏によって提唱されました。

☆ユニバーサルデザインの7原則

- (1) どんな人でも公平に使えること（Equitable use：公平な利用）
- (2) 使う上での柔軟性があること（Flexibility in use：利用における柔軟性）
- (3) 使い方が簡単で自明であること（Simple and intuitive：単純で直感的な利用）
- (4) 必要な情報がすぐわかること（Perceptible information：認知できる情報）
- (5) うっかりミスが許容できること（Tolerance for error：失敗に対する寛大さ）
- (6) 身体への過度な負担を必要としないこと（Low physical effort：少ない身体的な努力）
- (7) アクセスや利用のための十分な大きさと空間が確保されていること

（Size and space for approach and use：接近や利用のためのサイズと空間）

☆身近にあるユニバーサルデザインの具体例

自動ドア、幅の広い改札、スロープ、センサー式蛇口、ノンステップバス、ピクトグラム（「非常口」、「禁煙」、「車いす」、「トイレ」マークなどの標識）



東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、
障害の有無に関わらず、誰もが快適に過ごせる共生社会になるよう推進する活動が始まりました。

男性も女性も、高齢者も若者も、外国人も、
全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支え合うことが重要です。そのために、まず、自分とは異なる人々を理解しようとする一人一人の意識が最も大切かも知れません。

